

環境目標と実績

■ 2010年度環境目標と実績

環境保全活動の分類	項 目	2010年度目標	2010年度実績	結果
地球温暖化防止への 取り組み	鉄道事業の CO ₂ 総排出量	(1990年度比) 2030年度までに50%削減 276万t-CO ₂ ⇒138万t-CO ₂ [138万t-CO ₂ 削減]	215万t-CO ₂ [☆]	
		(1990年度比) 2017年度までに32%削減 276万t-CO ₂ ⇒188万t-CO ₂ [88万t-CO ₂ 削減]		
	省エネルギー 車両比率	86%	88% [☆]	達成
	列車運転用 電力量	2%削減(2006年度比) 41.7億kWh⇒40.9億kWh [0.8億kWh削減]	40.1億kWh [☆]	達成
	単位輸送量あたり 列車運転用電力量	2%削減(2006年度比) 1.85kWh/車キロ⇒ 1.81kWh/車キロ [0.04kWh/車キロ削減]	1.81kWh/車キロ [☆]	達成
駅・オフィス等 における省エネ	4.5%削減(2006年度比) 153億MJ⇒146億MJ [7億MJ削減]	158億MJ [☆] ^{※3}		
資源循環への 取り組み	駅・列車ゴミの リサイクル率	70%	92% [☆]	達成
	総合車両センター等で 発生する廃棄物の リサイクル率	95%	97% [☆]	達成
	設備工事で 発生する廃棄物の リサイクル率	92%	96% [☆]	達成
	事務用紙の 再生紙利用率 ^{※1}	100%	90% [☆]	
沿線での環境活動	東北・上越新幹線の 騒音対策75dB以下 (騒音対策対象地域について) ^{※2}	100% (2009年度達成目標)	100% [☆]	達成
環境コミュニケーション	毎年具体的な 環境保護活動	森づくりへの参加等	15箇所2.8万本 [☆]	—
環境マネジメント	全グループ会社が 具体的な 数値目標を設定	全グループ会社が 数値目標を設定	設定済	—

表内 はグループの目標

※1 事務用紙の再生紙利用率 再生紙の取り扱いについては、メーカーが再生紙として発売したものは再生紙として集計しています。

※2 東北・上越新幹線騒音対策 国の指導である75dB対策については、すでに完了しています。指導されている以外の地域について、現在、当社は独自に改良工事を進め2009年度に完了しました。

※3 駅・オフィス等における省エネ 2010年度目標設定時のエネルギー区分で集計しています。

■2010年度目標に対する評価

「駅・オフィス等における省エネ」、「事務用紙の再生紙利用率」の2項目については、目標達成とはなりませんでしたが、

●駅・オフィス等における省エネについて

駅・オフィス等の省エネについては、2008年6月に新たな環境目標として2010年度に向け目標設定し、設備の省エネ機器への更新や社員の節電の取り組みを進めてきました。しかし、バリアフリー設備をはじめとした駅構内設備の増加・増床が進み、また駅構内店舗等の増加という状況もあり、目標達成とはなりませんでしたが、

現在は、省エネ法の考え方もふまえ、オフィス部分と輸送部分の省エネについて分けて目標を設定していく検討を行っています。

●事務用紙の再生紙利用率について

事務用紙の再生紙利用率については、1996年にJR東日本単体目標として取り組みを開始し、2005年1月の目標改定により、これまでの単体目標からグループ全体の目標として取り組みを進めてきました。環境に配慮した事務用紙として再生紙利用率100%を目標としましたが、再生紙以外のFSC認証用紙等[※]も環境に配慮した事務用紙であるという考え方が広まる中で、当社グループでもFSC認証用紙等の利用が進みました。そのような理由もあり、再生紙利用率100%は達成できませんでした。

現在は、さまざまな物品等において、環境に配慮した製品の購入が求められていることから、新たな目標の設定にあたっては、事務用紙のみならず、さまざまな物品について、可能な限り環境に配慮した物品等を使用するよう検討を行っています。

[※]FSC認証用紙等 原料となるすべての木材等が、原料産出地(木材等伐採地)の法律・規則を守って生産されたバージンパルプを使用した用紙等。

●次期目標の設定について

2011年度以降の目標につきましては、これまでの取り組み状況の精査および社会的状況も踏まえ現在検討を行っており、目標が確定次第、プレスリリース等にて発表をさせていただく予定です。